

## 大ナンセンス

失礼して、歌唱つきの歌曲をご披露させていただきます。私、実は良い声をしてるのですよ。私は機械マシーネで歌を勉強いたしました。シンガーマシーネミシンを使ったんです。十九になるまですばらしいテノールだったんですよ。二十になってバスになりました。自分の旅券パスを取得したもので。

(ギターで前奏を弾く)

それでは歌唱つきの歌曲です。あれ、歌の出だしが浮かんできません。これは困った。家では上手にできたのに。とって今、家に帰ってみる訳にはいかないし。おしまいのところならわかっているのだが。でもおしまいから始めたら、早く終わりますぎてしまう。ああ、思い出せない。こうなったら思い出すまで、何か話でもしていきましょう。皆さん、このギターは、私の祖父の形見なんです。だって、このギター、二週間前に買ったんですから。でもいっぺんにはありません。ちょっとずつ買い足していったんです。まずはじめに、安い部品を買いました。この穴です。この穴を手に入れるまで、ずいぶんとあちこち走りまわりましたよ。楽器屋に行って、聞きました。「穴、ありますか？」すると、店の親父、「あるよ、何に使う穴かい？」私、「ギター用の」親父、「駄目だ、そういう穴はおいてないや」それで結局、ストーブの煙道パイプを買って、そのパイプから穴を切りとりました。そうやって、穴を手に入れたのです。そして、その穴の周りに板を張らせました。それに棹をつけ、弦を張って、ギターはできあがりました。弦を張るのには、二日もかかってしまいました。というのは、私は弦の端を糸巻に差し込み、巻き始めたんですが、弦のもう一方の端を留めてなかったのをすっかり忘れてたんです。端を留めてなかったものだから、弦はいくらでも巻きあがって。まあ、ギターを一度もご覧になったことのない方にはよくわからないでしょうけど。このギターを入れる袋も作らせました。蠟ワックス引き布でね。この袋はどんどん大きくなっていきます。

たんですよ。何しろ、成長布製ですからね。

それでは歌にしましょう。

冷たい谷底に、水車が回る

あそこに住んでいた恋人は消えてしまった。

皆さん、これは美しい古い歌ですが、私はひどく馬鹿げてると思いますよ。皆さんも一度よく考えてみて下さい。この歌では、まるで恋人が　まあ、私にはその娘がどこに住んでようと構うことはないんですがね　私としてはそんな娘っ子は好きな所に住めばいいんですけどね　この歌によれば、水車の中に住んでるんですよ。さつきも言ったけど、私としてはそんな娘っ子は好きな所に住めばいいんですけどね、そうは言ってももし本当にその娘が水車の中に住んでいるとしたら、その娘は片時も気の休まる暇がないでしょう。それからこんな歌もありますな　一度、誰かが歌うのを聞いたんだけど、そいつは舞台上立ってこう歌ってましたな。「君が僕を愛してるかどうか、僕は風に聞いてみた」風に聞かなきゃならんのなら、さっさと聞いたらよろしい、うすのろめ。すぐに風のように当てにならない答えをもらえるってわかるだろう。もつと馬鹿らしい歌も劇場で聞いたことがありますよ。オペレッタで　題名は忘れてしまいましたがね、そこにきれいな歌が出てくるんです。「空にはたくさんのヴァイオリンが掛かっている」「明るい希望に酔っている、有頂天である、の意」空にたくさんのヴァイオリンが掛かっているなんてどうしても腑に落ちませんな。でも、そのヴァイオリンが全部掛かっているたくさんの釘を天のどこかに打ちつけた奴が誰だか知りたいものです。

さあ、すっかりおわかりになったでしょう、

観客の皆様方、

ナンセンス、ナンセンス、ナンセンスばかり、

私を不正直な奴だなんて思わないで下さいよ。